

みんなの心に輝く学校をめざして

平成20年 4月1日
足利市立西中学校

みんなとは、生徒であり、保護者であり、地域住民であり、そして、教職員の皆様です。西中を語る時、誰もが瞳を輝かせ満ち足りた気持になる。そんな学校を創りたい。そのために、まずは校長の考えをお知らせすることにします。

今回から何回かでお知らせする内容は、校長の心構えにしました。校長のあり方は、学校の将来にまで大きく影響します。したがって、最初に取り上げましたが、この心構えは校長だけに必要なことではないと思います。

意見を積極的に述べる職員の育成とその環境をつくる

積極的な発言を奨励すべきである。世の中には沈黙を美德と捉えているような人も少なくはない。未曾有の教育危機にあるこの時代に、疑問を感じても黙っていて発言しないのは、世の中に不誠実を働いているのと同じである。積極的に発言していくことで、職員の能力は引き出される。意見を述べたり聞く中で教育観（理念）も培われる。意見を表明できる環境は、心の健康や安定に寄与することにもなり、活力あふれる職員を生み出す。したがって、たとえ間違っていると思える意見でも、意見は意見として尊重すべきであるし、発言したことによって発言者の不利益となるような対応は絶対にしないことである。

ゆとりのもてる職場をつくる

教職員には十分な能力がある。難関な採用試験に合格してきた教職員の力に、疑問との声を聞くこともあるが、私の経験では、教職員の力を引き出せない、活かしきれないがための批判が大半と感じている。目の前に障害物を置いておき、後から尻をはたいても効果は上がらない。能力を十分に発揮させるためには、障害を取り除くという観点からの実践や配慮が必要である。なかなか解決できない問題も、ゆとりのある職場なら程なく解決できる。

後輩を育てる考え方を進める

学校を動かす（機関車役）のは若い教職員である。後輩がやりやすいようにさり気なく力を出す。仕事を押しつけない。それが年上の務めでもあり、自分を向上させていくという考えを浸透させていくことが大切である。残りの教職人生もあとわずかかといった年齢に達し、自分のことが終わればそれで終わりではさびしい。高給をもらう価値がない。

威張ってはならない

立場や年齢が上の人に、異を唱えることができる職員は少ない。また、できにくい雰囲気教育界から払拭できたわけではない。したがって、威張ってはならない。威張る人には、いじめ問題の解消を語る資格はない。

人を命令で動かさない

連合艦隊の司令長官、山本五十六の言葉に、「やって見せ、言って聞かせてさせてみて、ほめてやらねば人は動かず」がある。軍隊は命令で動く世界である。海軍の頂点に立った人物が、人は命令では動かないと言っているのである。校長は全国で4万人を越える。そんな存在の校長が、命令で人を動かそうとするなどは、誠におこがましいことである。

